日本の古典絵画の中に現代的な風俗が紛れ込んだような「ニッポン画」という独自の絵画を描いています。今回の展覧会では過去作から最新作まで幅広い作品を展示することでニッポン画の世界を楽しんでいただきたいと思っています。また近代日本画とニッポン画の同一テーマの作品を並べて展示することでそれぞれの魅力が伝わる展示内容にもなっています。
日本文化が持っている明るさとしなやかさをご覧ください。

山本太郎
TARO YAMAMOTO

略　歴

1974　熊本県に生まれる
1999　ニッポン画を提唱 日本の古典と現代の風俗が融合した絵画を描き始める
2000　京都造形芸術大学美術学科日本画コース卒業
2015　京都市芸術賞新人賞、京都府文化賞奨励賞受賞
2022－　京都美術工芸大学特任教授

主な展覧会

2020　「リニューアル・オープン記念展Ⅰ ART in LIFE, LIFE and BEAUTY」サントリー美術館（東京）
2022　「たろうつなぎプロジェクト成果展　たろうとニッポン画わたし話」　つなぎ美術館（熊本）
2023　「シン・ジャパニーズ・ペインティング　革新の日本画」　ポーラ美術館（神奈川・箱根）

舞踊

日本画×ニッポン画

（上段・左）**上村松園　『白拍子』　軸装　110.4×31.7cm**
6,600,000 円
我が国において美人画の最高峰に位置付けられる上村松園。
描かれた女性は静御前であると思われる。松園は静の凛とした生き様に自らの画業を重ねたのかもしれない。
昭和23年、女性で初めての文化勲章受章。

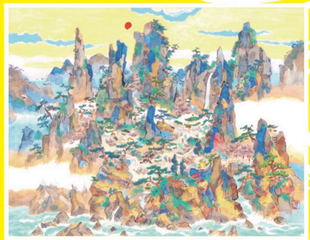
（上段・右）**山本太郎　『兎サーフボード』　F4号**
352,000 円
北斎が描いた波のような背景の前で兎がサーフボードを持ってジャンプしています。サーフボードがワニになっていることから昔話の「因幡の白兎」を思い出させる作品です。

（下段・左）**池田遙邨　『寿山福海』　10号**
1,980,000 円
終生絵を描くことを愛した放浪の画家・池田遥邨。
古代中国では海の彼方にある理想郷として信じられた蓬莱山を遥邨らしいユーモラスなタッチで描いている。
昭和62年、文化勲章受章。

（下段・右）**山本太郎　『今山水図』　10号**
880,000 円
古い山水の絵のようですが、よく見ると山の麓から中腹には道路が走っていて、その途中には信号も見えます。
さらに頂上には駐車場も。どんな山の奥にも現代的なものが入り込んでいる現状を表現しています。

山水

日本画×ニッポン画



日本画×ニッポン画

山本太郎の世界展

6月26日（水）→7月2日（火）
午前10時～午後8時（催し最終日は午後5時終了）
神戸阪急 本館9階 催場

《作家在廊予定》　6月26日（水）・29日（土）・30日（日）・7月1日（月）
（予定が変更となる場合がございます）
6月29日（土）午後2時～ 作家によるギャラリートーク開催

右：上村松園『白拍子』軸装 110.4×31.7cm
左：山本太郎『兎サーフボード』 F4 号

※表示価格は消費税を含んだ税込価格です。
※写真と実物では色・素材感などが異なる場合がございます。
※イベント、内容などは都合により中止・変更になる場合がございます。

Hankyu

神戸阪急
〒651-8511
神戸市中央区小野柄通8-1-8
電話（078）221-4181

営業時間 午前10時 →午後8時

ニッポン画 NIPPON－GA

日本画 NIHON－GA

燕子花・菖蒲

山本太郎 『燕子花ラバーダック』 F4号
352,000 円
燕子花は琳派を中心とした日本の絵画の中でしばしば描かれてきたモチーフです。この絵の中では水鳥や小禽の代わりに現代的なラバーダックを合わせました。

小倉遊亀 『菖蒲』 5号 7,150,000 円
105歳で天寿を全うし、女性としては上村松園に次いで二番目に文化勲章を受章した小倉遊亀。まさに花咲かそうとする菖蒲を描いた昭和48年の秀作。
昭和55年、文化勲章受章。

松

山本太郎 『松樹鉄鶴図』 F4号
352,000 円
松と鶴は日本美術を代表するような題材です。この作品では鶴ではなく鉄の鶴（飛行機）が飛んでいます。信号機と松の組み合わせは「良い信号をまつ」のダジャレであり、全体的におめでたい組み合わせとなっています。

片岡球子 『富士』 4号 19,800,000 円
一度見たら忘れられない強烈な画風で一世を風靡した片岡球子。中央に堂々と描かれた松と代表図柄の赤富士。清々しい100歳頃の晩年作。
平成元年、文化勲章受章。

猿・小動物

（左）**山本太郎 『猿猴撮月図』 F4号 352,000 円**
猿が水に映った月を手で取ろうとするという「猿猴捉月」は自分の力が及ばない望みを抱いて失敗する意味で描かれてきましたが、この絵の猿はスマホで軽やかに月を撮っています。「月」は「ツキ」でもあり縁起の良いモチーフです。

（右）**山本太郎 『カンパニー犬』 F4号 352,000 円**
江戸時代に中村芳中が描いた、正面向きの可愛らしい犬を現代版にアレンジした作品です。ネクタイを締めた犬がお土産を持ってご挨拶しています。

橋本関雪 『犬猿馴致』
軸装 125×41cm
3,300,000 円

昭和14年東京美術倶楽部 売立出品
石田 禮助（いしだ れいすけ）氏 旧蔵
旧三井物産代表取締役社長・
旧国鉄総裁。

京都銀閣寺前に広大な邸宅を構え、生前には竹内栖鳳をも凌ぐ勢いを有したと言われる橋本関雪。猿を筆頭に動物画の定評が高いとされる関雪だが、「犬猿の仲」と言われる猿と犬が慣れ親しむ姿が暖かい眼差しで描かれている。

虎

山本太郎 『虎バルーン』 M10号
880,000 円
昨年の関西の野球チームの優勝を念頭におきながら描いた作品です。色取り取りの風船が空に舞い、より祝祭性を高めています。

桜

山本太郎 『桜花清涼飲料水紋図 Red×Gold』 F4号
352,000 円
清涼飲料水の缶から琳派の画家たちがよく描いた流水紋が流れ出る作品はニッポン画を代表するモチーフです。この作品はさらにめでたく赤い背景に桜の花をあしらっています。

歌舞伎

山本太郎 『暫 Red×Silver』 S10号
968,000 円
「暫」は歌舞伎の演目でも最も有名なものの一つです。
この作品はNEO UKIYOEというシリーズの一つで日本的なモチーフをポップアートのような色彩で描いています。

美人画

山本太郎 『金の雪姫』 F4号
352,000 円
江戸時代にお気に入りの歌舞伎役者を応援することは現代の推し活と近いのではないかということで生まれた「推し世絵」シリーズの1枚。中村壱太郎さんがモデルです。

龍・兎

山本太郎 『龍と自撮りウサギ』 M15号
1,320,000 円
鳥獣戯画調のウサギが龍の背中を駆けているおめでたいモチーフです。ウサギにとっても龍が珍しいのか、スマホを使って撮影しています。

山本太郎 『清涼飲料水紋図 Silver×Blue』 M10号
880,000 円
清涼飲料水の缶から尾形光琳風の流水紋が流れ出る作品はニッポン画を代表するシリーズです。「清涼飲料水紋図」と呼ばれています。
この作品はシルバーと青の組み合わせが爽やかで現代的です。